資料１

意見交換会等の実施報告について

Ⅰ　現状把握のために意見交換（調査票による回答を含む）を実施した団体

	団体名	日時	場所
1	かこがわ市民団体連絡協議会	調査票による回答	
2	加古川市 ボランティアセンター登録グループ	社会福祉協議会との意見交換及び調査票の回答	
3	加古川市シニアクラブ連合会	8 月 27 日（木）9:30～10:30	総合福祉会館
4-1	加古川市身体障害者福祉協会	8 月 20 日（木）10:30～11:30	総合福祉会館
4-2	加古川ろうあ協会	8 月 14 日（金）10:00～11:30	総合福祉会館
4-3	加古川市視覚障害者福祉協会	8 月 7 日（金）10:00～12:00	総合福祉会館
	加古川中途失聴・難聴者協会	活動休止中	
4-4	加古川市手をつなぐ育成会	8 月 4 日（火）10:00～11:30	総合福祉会館
4-5	加古川市 肢体不自由児者父母の会	8 月 7 日（金）10:00～11:30	ゆうかり園
5	NPO 法人 子育てサポート☆きらり ing	調査票による回答	
6	NPO法人 神戸の冬を支える会	8 月 7 日（金）14:00～15:30	NPO法人神戸の冬を 支える会姫路事務所
7	加古川青年会議所（企業関係）	調査票による回答	
8	二市二町老人福祉事業協会	8 月 13 日（木）14:00～14:30	浜の宮松竹園

Ⅱ　地域活動を行う人材を把握するために意見交換を実施した団体

	団体名	日時	場所
1	兵庫大学ボランティアセンター	9 月 8 日（水）14:00～15:00	兵庫大学
2	NPO法人 シミンズ・シーズ	8 月 27 日（木）14:00～15:00	かこむ（東播磨県民局）
3	いなみ野学園 地域活動支援センター	8 月 6 日（木）14:00～14:45	いなみ野学園
4	加古川市スポーツ・文化課	8 月 20 日（木）15:00～15:30	加古川市役所

Ⅰ　現状把握のために意見交換（調査票の回答を含む）を実施した団体

１　かこがわ市民団体連絡協議会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢　担い手の固定化・高齢化 ➢　運営上の資金や人材不足
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢　団体同士のつなぎ役、スキルアップ支援 ➢　市民・企業・行政等との協働
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢　活動に関する研修や講習会を開催する ➢　若い世代への参加を呼びかける ➢　学校教育の場で周知を図る

２　加古川市ボランティアセンター登録グループ

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢　担い手の高齢化、主要当事者メンバーの体調によって活動が難しい。 ➢　当事者の声がたくさん聞ける場所や難聴者同士が集える場所、覗いてみたいと思える雰囲気作り、同じ仲間がいる安心感を得られる場所などが必要。 ➢　各種制度を利用するための情報や相談窓口の存在を知らないことで孤立している人がいる。 ➢　複数の団体組織が協力できる横のつながりが必要。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢　外出支援や制度の狭間にある問題などについて、県や市への働きかけを行っている。 ➢　集える場を提供している。 ➢　要約筆記者・要約筆記者活動の PR を実施している。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢　気軽に相談できる窓口を設置する ➢　活動に関する情報を積極的に発信する ➢　若い世代への参加を呼びかける

３　加古川市シニアクラブ連合会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 定年延長に伴い、時間的に余裕のある高齢者が減少し、勧誘をしても加入しない。 ➢ 地域の下支えを担う団体（少年団、ＰＴＡ、町内会やシニアクラブなど）が次々と解散しており、地域における支え合いの希薄化が進んでいる。 ➢ 団塊の世代より上の世代は互助意識が強い一方で、下の世代は、自分の家庭以外とはあまり関わりたくない意識が強いため、互助の体制作りは衰退する一方である。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 地域や行政などと一層の連携を図り、シニアクラブの活性化と向上発展に努力する。 ➢ 人と人との交流が健康につながるため、交流の場を作れるように努力する。 ➢ 勧誘活動をこまめに行う。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 気軽に相談できる窓口を設置する ➢ 若い世代への参加を呼びかける ➢ 人材・リーダーの育成をする

４－１　加古川市身体障害者福祉協会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 公共施設を含めた建物について、新築の施設はバリアフリーに配慮されているが、既設の施設はバリアフリー改修が間に合っていない。全体的に手すりは増えてきているが、十分ではない。 ➢ 道路について、バリアフリーが進んでいない。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 移動手段に困っている人がいる場合に、当事者団体内で協力し合っている。 ➢ 挨拶など日頃からのコミュニケーションを通じて障がいのことを知ってもらう。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 気軽に相談できる窓口を設置する ➢ 若い世代への参加を呼びかける ➢ 人材・リーダーの育成をする

４－２　加古川ろうあ協会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 市の公式 LINE などで情報伝達は改善されているが、町内放送等の音による情報伝達には気づけないことが多い。 ➢ 避難勧告が出されても、近隣住民の動きを見て察知してからの避難となるため、どうしても避難が遅れる。 ➢ 文章での理解が苦手な人もいるので、文章に加えて絵や図、手話での伝達が望ましい。 ➢ 手話通訳士の高齢化やなり手不足が顕在化している。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 聴覚障がい者同士の交流の場を設ける。 ➢ 手話のイベントを開催し、聴覚障がいについて啓発する。 ➢ Instagram などの SNS での情報発信を充実する。 ➢ 困りごとを近所の人へ伝えるなど、聞こえないということを自分からアピールする。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 気軽に相談できる窓口を設置する ➢ 活動に関する情報を積極的に発信する ➢ 人材・リーダーの育成をする

４－３　加古川市視覚障害者福祉協会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 視覚障がい者に配慮した設備が指定避難所に整備されていないため、自宅待機をせざるを得ない。一次避難先の段階から、福祉避難所を開設してもらう方がよい。 ➢ ヘルパーが被災した場合、自分のことを補助できる人がいない。 ➢ デジタルを活用している人と、そうでない人との差が広がっていると感じる。 ➢ 「情報を得ること」と「移動手段」は、依然として大きな壁である。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 視覚障がいに関する啓発イベントを周知する。 ➢ 視覚障がい者同士の交流会を開催する。 ➢ 困ったことがあれば勇気をもって自分から積極的にＳＯＳを発信する。 ➢ 「何もしてくれない」ではなく、自分のことを知り、助けてくれる人を増やす。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 活動できる拠点や場所を整備する ➢ 活動に関する情報を積極的に発信する ➢ 若い世代への参加を呼びかける

４－４　加古川市手をつなぐ育成会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 災害時避難行動要支援者制度について、日頃の見守りや声かけについて地域で差があり、災害時に機能するかどうかに不安がある。 ➢ 福祉避難所が一次避難所ではないことや福祉避難所に指定した施設との連携ができているかどうかに不安がある。 ➢ 福祉現場の人材不足が深刻である。 ➢ 市内の移動について、移動手段がなく不便な地域がある。 ➢ 親の就労は進んでいる一方で、近所の方との交流の時間が減っている。 ➢ 支援学校や支援学級が増加するなかで、普通学級と区別されることで、互いに接する機会が減少し、障がい等について知る機会が減少している。 ➢ 福祉につながっていない人を、福祉行政等につなげる方法が分からない。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 災害時避難行動要支援者制度への登録を勧める。 ➢ 町内会長や民生委員等に対し、支援の必要な当事者の家庭への安否確認等を依頼する。 ➢ 地域コミュニティへの積極的な参加やあいさつ等を通じ、自分たちの存在を知ってもらう。 ➢ 障害の特性や「何に困っているか」を知ってもらうよう活動する。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 若い世代への参加を呼びかける ➢ 人材・リーダーの育成をする ➢ 学校教育の場で周知を図る

４－５　加古川市肢体不自由児者父母の会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 個別避難計画の作成が進んでいないため、発災時に不安がある。 ➢ 災害時の避難先に支援してくれる人がいるとは限らないという不安がある。 ➢ 地域に出ていくことだけでも家族には大変な労力が生じる。 ➢ 多目的トイレにおける成人用のユニバーサルシートや介助用ベッドが不足している。 ➢ 市内の生活介護事業所が不足している。 ➢ 重度心身障害者を受け入れに係る医療機関同士の連携や支援体制が不十分である。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 避難行動要支援者名簿に登録しておく。 ➢ 町内会や民生委員に障がい者（児）の様子を見てもらうなど、理解を深めてもらう。 ➢ 困った時に相談できる場所の連絡先を調べておく。 ➢ 有志のメンバーで、勉強会や避難訓練を実施している。

地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 気軽に相談できる窓口を設置する ➢ 交通費等の実費をもらえるようにする ➢ 活動に関する研修や講習会を開催する

５　ＮＰＯ法人　子育てサポート☆きらり ing

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 父子家庭への支援が少ない。 ➢ 孤立した家庭への支援方法が課題。 ➢ 小学生のあそび場、居場所が少ない ➢ 地域での多世代の交流が少なくなっている。 ➢ 暮らしの中の困りごとに対する問い合わせ先が一つにまとまっておらず分かりにくい。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 子育てプラザで子育て世代からシニア世代まで幅広い世代が交流できる場を提供する。 ➢ 子育てに関する情報について、多機関と連携し、知り得た情報を発信する。 ➢ 市の情報発信の場としてプラザを利用してもらう。 ➢ こども園、幼稚園、高齢者大学、高校、各支援センター等への講師派遣を実施する。 ➢ 空き家等を利用して支援者を募り、小学生や子育て世代の居場所を提供する。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 気軽に相談できる窓口を設置する ➢ 活動できる拠点や場所を整備する ➢ 人材・リーダーの育成をする

６　ＮＰＯ法人　神戸の冬を支える会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 生活困窮者（路上生活者）に対する「自己責任論」の考えによって、支援につながらない人が存在している。 ➢ 偏見によって生活困窮者が地域コミュニティに参画することができず、孤立している。 ➢ 人口は減っているが、生活困窮に係るニーズは減っていない。また、昔と比べて若い人が増加している。 ➢ 生活困窮者に対する課題は、地域に理解されにくい。 ➢ 可視化されない居住支援対象者が増加している。 ➢ 刑務所などを出所した人を地域で支えられるような社会支援が必要。

地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ いつでも安心して相談できるような体制の確立し、切れ目のない支援を行う。 ➢ 行政とは違うＮＰＯとしての立場を明確にした活動をすること。 ➢ 地域へ一方的に理解を促すだけではなく生活困窮者の実態を知ってもらう。 ➢ 差別や偏見をなくすことの重要性の認識と人権意識の向上を図る。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 活動できる拠点や場所を整備する ➢ 活動に関する情報を積極的に発信する ➢ 若い世代への参加を呼び掛ける

７　加古川青年会議所

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 人口減少や地域コミュニティの希薄化が進むなかで、地域に関心を持ち、自ら地域の未来に関わろうとする担い手が不足していること。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 地域の課題や魅力に触れる機会を創出し、多様な人や団体をつなぐことで、地域に主体的に関わる人材を育成すること。 ➢ 地域に関心を持ち、地域活動への参加や身近な人とのつながりを大切にしながら、自分にできることから行動すること。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 気軽に相談できる窓口を設置する ➢ 活動に関する情報を積極的に発信する ➢ 学校教育の場で周知を図る

８　二市二町老人福祉事業協会

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢　訪問介護員、ケアマネジャーや介護ヘルパーが慢性的に不足している。 ➢　家族から被介護者へのハラスメントの件数が増加している。 ➢　地域住民の高齢化や身寄りのない方が増加し、ごみ当番や隣保役等が継続できない。 ➢　通院や買い物などの移動手段の確保が難しい方が増加している。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢　ささえあい協議会を通じた行政や地域団体との協働 ➢　施設スペースを活用した「地域サロン」「介護カフェ」の運営 ➢　移動手段の確保が困難な利用者に対する低額移動サービスの提供 ➢　地域活動への積極的な参加 ➢　地域住民が気軽に相談できる窓口となれることを目指す ➢　トライやるウィークの受け入れ等を通じた、子どもに対する福祉意識の醸成
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢　若い世代への参加を呼びかける ➢　人材・リーダーの育成をする ➢　学校教育の場で周知を図る

Ⅱ　地域活動を行う人材を把握するために意見交換を実施した団体

１　兵庫大学ボランティアセンター

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ 長期間のボランティアを管理できないため、短期間のボランティアを中心に実施している。 ➢ ボランティアをする場への移動手段や、保険費用などが学生の負担となっている。 ➢ 近年は、生活費のためのアルバイト等により、学生自身の時間的余裕がなくなってきていると感じる。メンタル面での不調を訴える学生が増えてきている。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 入門ボランティア講座を通じて、ボランティアへ参加する学生を増やしていく。学生のボランティアへの参加意欲は、以前よりも高まっていると感じる。 ➢ 学部ごとの特色に応じて、授業の中で地域活動への参加を促す流れを構築し、学生の成長と地域貢献の両立を実現している。 ➢ 学生プロデュースの結婚式企画、自然学校への参加、市イベントへのスタッフとしての参加など、本市を含む行政機関と連携しながら、地域貢献へとつながる仕組み作りを定着させていく。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 交通費などの実費をもらえるようにする

２　ＮＰＯ法人　シミンズ・シーズ

活動の中で感じている地域の課題（困りごと）
➢ シニア世代中心のボランティアが多く、若い人のボランティアの受け皿がない。 ➢ 学生ボランティアの加入数は横ばいだが、大学等を卒業した後は転出が多く、市内での活動につながらない。 ➢ ボランティアへの参画に関するハードルが高いと感じる人が多い。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ かこむのフリースペースを活用したつながりの場の提供、図書スペースの開放。 ➢ まちあそび（高齢者と子どもとの遊びのイベント）を通じた世帯間交流の充実。 ➢ ちょっとボランティア（特定の団体に所属するのではなく、好きな時にちょっとしたお手伝いをする）の取組で、ボランティア参加のハードルを下げている。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 「若い世代への参加を呼びかける」を最も重要視している。

３　いなみ野学園地域活動支援センター

活動状況
➢ 設立当時は、各クラブと地域活動をコーディネートする専任職員が居たが、今は居ないため当時のつながりをもとに活動している。 ➢ 高齢の方が多いため、１つのグループで地域活動を行うことは難しい。複数のグループで地域活動に対応する必要がある。 ➢ クラブ活動をしている学生は発表の機会を求めており、きっかけがあれば担い手となる可能性はある。
地域の課題（困りごと）を解決するためにできること
➢ 各クラブには、ボランティアセンターへの登録を進めるなどの働きかけをしている。 ➢ 加古川市以外の学生も多く、学園外でそれぞれの地域で集まって地域活動している。
地域活動やボランティア活動の輪を広げていくため必要なこと
➢ 交通費等の実費をもらえるようにする

４　加古川市スポーツ・文化課

活動クラブ数・活動人数
①ＮＰＯ法人加古川総合スポーツクラブ クラブ数：31 クラブ（12 エリア）、136 種目、会員数：3,302 人（R8.7.1 現在） ②加古川市スポーツ協会 加盟協会数:27 種目協会､会員数:約 12,000 人 ③スポーツ推進委員会：委員数:45 人(定数 56 人) ④加古川市スポーツネットワーク委員会(①～③の団体により構成されている組織) ⑤加古川市スポーツサポーター：人数:69 人
活動内容
①ＮＰＯ法人加古川総合スポーツクラブ オータムスポーツフェスタ、アーリースプリングスポーツフェスタ、ピックルボール大会、各種スポーツ大会の開催など ②加古川市スポーツ協会 表彰育成事業、国体激励会事業、健康・体力づくり事業、加古川カップ綱引大会 ③スポーツ推進委員 スポーツライフセミナー、市主催イベントでの運営支援、市民スポーツのコーディネーター ④加古川市スポーツネットワーク委員会（①～③の団体により構成されている組織） 加古川スポーツカーニバルの開催 ⑤加古川市スポーツサポーター かこパラスポーツ王国、ボッチャ交流大会